

■欧州：欧州気候基金は電力ゼロカーボンへのロードマップを公表

欧州電事連が 2009 年 3 月に、2050 年までに電力供給の「カーボンニュートラル」化を行うとの目標を発表したことを受け、ブリュッセルに本部を置くシンクタンクの欧州気候基金（European Climate Foundation）は 2010 年 4 月 13 日、「ロードマップ 2050」と題する報告書を公表した。この報告書は 2050 年に発電による CO2 排出をゼロ化するシナリオを記載しており、その中で、2050 年時点の電源ミックスについて、水力を含む再エネ 40%、原子力 30%、CCS 技術を採用した火力 30%の案の他、複数案を提示している。報告書では、重要点として「分析の結果では、再エネ・原子力・CCS による火力の電源ミックスが変わっても、2010 年から 2050 年までの 40 年間における設備投資費用とランニング費用（系統対策を含む）の合計値は、結果的に同程度であることが判明した」と述べている。同報告書に対し欧州電事連は、示唆に富むものとコメントしている。また EU エネルギー担当コミッショナーは、今年後半に制定予定の「インフラパッケージ」の参考になるとコメントしている。